

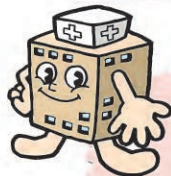
三豊総合病院だより

Mitoyo General Hospital

発行●三豊総合病院

発行人●白川 和豊

KOKORO

2011
46

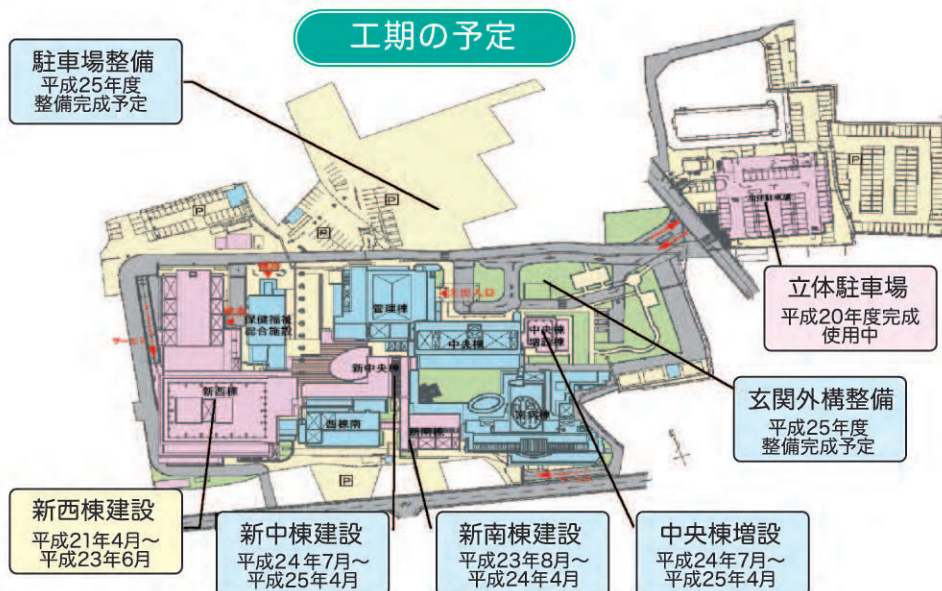
新西棟完成間近!!

平成21年5月に着工され建設が進んでおりました新西棟建設工事がいよいよ完成間近となりました。そこで、新棟整備事業の現在の進捗状況並びに今後の工事予定についてご紹介いたします。新棟整備計画では現在の建物の西側に

近代的な病院建物を建築し、その後古い建築物の撤去を行う予定です。増築・改修・解体を順次とり行い平成25年4月にはグランドオープンする予定です。皆様には工事・移転などにてご迷惑をおかけすると思いますが、医療の進歩、社会のニーズに対応出来るような病院作りを目指しておりますので、御協力をお願いいたします。工事の進行具合に合わせて今回より何回かに分けて状況を掲載する予定です。

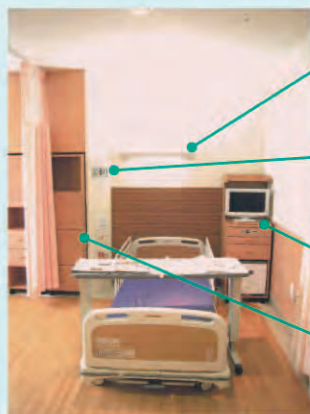
8階	整形外科 (西3)
7階	内科 (中4)
6階	内科循環器 (東5)
5階	脳外科 (東2)
4階	外科 (西4)
3階	産科・小児科 (中東3)
2階	救命救急 ICU・OP
1階	リハ・救急 放射線科
地下	地下1階

新西棟*()は現在の病棟



<平成23年6月に完成予定>

新西棟の療養環境



ベッド照明+読書

医療ガス・電源

テレビ・冷蔵庫

ロッカー・収納

- 病棟はスタッフステーションを中心に、4床室・個室・重症個室棟を設置しケアしやすいようにします。
- デイルームやデイコーナーを設け、アメニティの充実を図ります。廊下は2.7m幅を確保し、ベッドサイドリハビリやベッドのすれ違いがスムーズに出来るようにします。
- 多床室は4床を基本とし、ベッド間隔を十分に確保します。各部屋にトイレ、洗面所を設け利便性を向上します。
- 個室はトイレと洗面台のある部屋とユニットシャワー一体型のトイレのある部屋を設け療養環境の向上を図ります。

ドイツ・フィンランド視察研修に参加して

合田 信子

平成22年5月24日から6月4日の12日間、全国国民健康保険診療施設協議会主催の「ドイツ・フィンランドの保健・医療・福祉視察研修」に参加させていただきました。三豊総合病院からは廣畑衛企業長、長町顕弘整形外科部長と私の3人が参加しました。5月24日全国から集まった医師、看護師で結団式を行い、5月25日ドイツに旅立ちました。最初の目的地フランクフルトまで乗り換えながら約12時間で到着しました。

ドイツでは疾病金庫共同審査機関（要介護認定調査や判定、再審査を行う機関）・リハビリセンター・ドイツ連邦保健省・訪問看護・介護ステーション・エリザベス病院などの視察を行いました。ドイツの介護保険制度は日本の介護保険制度が始まる5年前、1995年から施行されています。日本の介護保険を始める時、ドイツの介護保険を参考に日本に合った制度に作り上げたため、似ている所が多くありました。要介護度は日本が5段階なのに対し、ドイツは3段階ですが要介護3の人は日本の要介護5に相当する内容でかなり重度でないと認定されません。日本もドイツも今後、ますます高齢化が進み同時に認知症の人数が増えることが予想されています。そのためリハビリテーションや予防、介護保険金の増加などの対策に取り組んでいるとい



▲ドイツノエリザベス病院

うことでした。印象的だったのはエリザベス病院でした。いろいろなタイプの高齢者施設がありケア付き住宅・高齢者病棟・介護ホーム（認知症専用）・デイクリニックなどが緑の中に点在しており、和やかな空気が流れ、近くにあればぜひここに住みたいと思う素敵な環境でした。

ドイツの食事はポテトがメインでとても美味しくいただきました。もちろんソーセージ・チーズもバラエティーに富んでおり、約1時間の散歩のおかげで朝食のバイキングは格別でした。



7日目からは福祉の国フィンランドを視察しました。滞在中は連日、雲ひとつない晴天に恵まれ、特にヘルシンキ大聖堂の白と澄みきった青空のコントラストは見事でした。フィンランドでは高齢者認知症グループホーム・介護機器用品製造所・トゥルク市保健福祉サービス局・



▲ドイツにて

カスケナリナ病院・フィンランドがん協会・高齢者サポートセンターなどを視察しました。

フィンランドでは、基本的に住居地や年齢に関係なく、安心して生活できるような保障をされるべきであるという考え方のもと、市にそれぞれの分野で特別法が定められており、県は国の出先機関として国と市を取り持つのみで、市が生活全般についての責任を持っています。各市により異なりますが市税が非常に高く給与の約18.63%が市税として徴収されそれにより、さまざまな公的サービスを提供しています。たとえば高齢者認知症グループホームへの入所は市が入所申込をする施設を決め、ほとんどの人がその指定された施設に入所されています。

がんの患者は年間2万人ずつ増加しており、男性では前立腺がん、女性では乳がんが一番多い疾患です。フィンランドでは、全国12地域にがん協会があり広大な敷地にナースングホーム、ケア付き住宅、ホスピスなどが建設されています。そして、カウンセリング、がん研究、教育など幅広い活動を行っていました。湖の近くで、フィンランドの人にとって昔から重要な、サウナ(日本では温泉かな?)を設置し、いろいろな

進行時期に合わせて生活できる総合施設でした。市税は高いですが将来安心して過ごせるところは本当に魅力的でした。しかし、そんなフィンランドでも高齢化により、財政難となっており、個人の保険もできてきているそうです。

フィンランドの食事もおいしかったです。よく海外旅行に行っている看護師さんが、日本から持ってきていたインスタントのお味噌汁を飲んだ時は、参加メンバー全員がやっぱり日本が一番と感じた朝食となりました。

今回の視察研修を通し、将来を見据え、保険、医療、福祉が連携することの重要性を再認識しました。そして、やっぱり日本(香川県)が一番だなと感じた視察研修でした。



▲フィンランドノビラタピオラ
高齢者認知症グループホーム中庭

救命救急センターが開設

救急委員会研修委員 喜井なおみ

当院は現在新棟建設中で、6月には完成し、香川県で3つ目の救命救急センターが開設予定です。重症や複数診療領域の重篤な救急患者に対して、高度な救急医療技術を提供する、救命救急センターのスタッフには、救急における幅広い知識や技術が必要となります。

そこで、昨年7月から、医師やICU看護師の協力の元、月に一回、定期的に救急勉強会を開催しています。

当初、救命救急センターのスタッフ対象に開催予定でしたが、職員の希望により対象者を「救急に興味がある方」としました。内容によっては看護師だけでなく、医師や放射線技師・臨床検査技師も多数参加してくれます。その熱心な姿を見て、職員の救急に対する関心の強さを感じることができ、頼もしく思います。

この勉強会は、救命救急センターが開設後も続けていく予定で、多部門のスタッフと協力しながら、よりよい救急医療が提供できるように努力していきたいと思っています。



三豊観音寺市医師会症例検討会より

三豊総合病院 内科
幡 英 典

吐血や下血は私たち消化器内科 の領域で救急対応が必要な 疾患としてよく遭遇します。

吐血や下血は私たち消化器内科の領域で救急対応が必要な疾患としてよく遭遇します。吐血は消化管から出血した血液成分を嘔吐することですが、通常は食道・胃・十二指腸といった上のほうの消化管からの出血です。出血直後の血液は鮮紅色ですが、しばらく経過した場合、胃酸の作用で血液が黒色となり、コーヒー残渣様ともいわれ、暗赤色から黒褐色の吐物となります。吐血しない場合でも、タール便といわれますが、墨のような黒色便がでる場合には消化管出血を考えます。吐血や下血を主訴に来院される患者さまを診察する場合、基礎疾患や症状、吐いたもの・便の性状や色、量などをみて、おおよその出血源や出血量を推測しますが、実際のところ、外から見ただけでは、どこからどのようにでているのか、現在出血は止まっているのか、続いているのかが判断できません。また、出血量によっては、急に血圧が低下したり、意識がなくなったりと、命にかかわるような状態となることがあるため、状況によっては急いで胃カメラをして、出血源を同定し、必要であれば、血を止める処置をしなければなりません。当院での緊急内視鏡検査症例について表1にお示しいたしましたが、出血の原因として頻度が多いものとして、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、食道・胃静脈瘤破裂、マロリーワイス症候群、急性胃粘膜病変などがあげられます。各疾患の年齢分布をみてみますと、非常に高齢な方が多く見られます。地域的な要素もありますが、基礎疾患が多いことや、解熱鎮痛剤・ステロイドなどの、胃潰瘍の原因となりやすい内服薬を飲んでいることが多いこと、胃癌などの悪性腫瘍が増加してくることなどが原因と考えられます。高齢であるほど、体力低下や栄養状態が不良なこと、腹痛などの自覚症状が乏しく、黒色便に気付かず発見が遅れることで、非常に危険な状態で運ばれてくることが多く、緊急の処置すら困難な状況になってしまうことも少なくありません。

吐血や下血（特に黒色便のみの場合）は量が少なかったり、症状がなかったりすると、病院受診を控えてしまうケースがあるようですが、まずは診察を受け、早期に診断し、適切な処置をすることが重要です。当院でも24時間、いつでも対応できる体制で診療にあたらせていただいております。

当院における2008・2009年度の緊急上部内視鏡件数と年齢

	胃潰瘍	十二指腸潰瘍	マロリーワイス	胃がん	食道静脈瘤	胃静脈瘤	その他	不明	計
～40歳		5	1		2				8
40～50歳	4			1	3		1	1	10
50～60歳	18	5	1	4	11	3	6	4	52
60～70歳	23	3	1	5	9	1	4	3	49
70～80歳	32	6	2	3	2		8		53
80～90歳	16	6	3	5	1		10	4	45
90歳～	2	1		5				1	9
計	95	26	8	23	28	4	29	13	226

三豊観音寺市医師会症例検討会より

ジギタリス製剤と**薬物中毒について…**

三豊総合病院 循環器科

大 西 伸 彦



今回は、心臓疾患で処方される機会の多いジギタリス製剤について説明します。

* 薬の名前としては、ラニラピッド、ジゴシンなど…

古くは、ヨーロッパで秘伝の生薬を用いた民間治療として使われていたもののようです。

1776年スコットランド人医師がその薬効について世界に初めて発表しました。

その効能としては、強心配糖体として心筋に特異的に強心作用を有します。

現在では、うっ血性心不全や不整脈などに広く使われ続けています。

ただし、弱点としては治療の安全域が狭いことです。分かりやすく言うと少しでも内服する量が多くなると薬の血中濃度が上昇して副作用が前面に出やすい薬です。

この薬の副作用としては、消化器（食欲不振、悪心/嘔吐、下痢等）、視覚異常（物がチラチラ見える、黄く見えたり、二重に見える等）、精神神経症状（めまい、頭痛、不穏、うわごと等）、不整脈（脈が遅くなる等）などです。

これらは、特に珍しくもなく一般的に経験するもののため、軽い体調不良と感じるかもしれませんが、精神症状に関しては認知症で片付けられてしまうかもしれません。

治療としては急性期は血圧/脈の確保に努め、ジギタリス製剤を中止して体から排泄されるのを辛抱強く待っていれば元気になることが多いです。

ここまで読むと何か怖い薬のように感じられたかもしれませんが、要は薬の特性を知った上で使えばこれほど歴史がある良い薬はありません。

このような安全域の狭い薬は、血中濃度を測ることで中毒域に入るのを避けるべく薬の投与量の適宜調整をすることが出来ます。

診察や検査はせずに薬を処方のみを希望される方も見受けられますが、このような薬の副作用は診察、採血などで回避できるものです。

外来では主治医と体調などについて適宜相談するようにしましょう。

医師会症例検討会では、当院で測定しているジギタリス血中濃度(平成17年3月から平22年3月 432検体 延べ162症例)を腎機能との関連を検討しました。

ジギタリス中毒で緊急入院した時に腎機能が明らかに不良な例がありましたが、退院時には腎機能も正常域に戻る例が多いようでした。処方する側のジギタリス中毒に対する理解は十分で、腎機能が低下していれば処方は控えています。高齢者ではちょっとした脱水で血中濃度が跳ね上がりジギタリス中毒に移行している印象があり、注意が必要と思われました。

ジギタリスの花



ゴマノハグサ科の耐寒性二年草
または多年草ヨーロッパ原産
和名ではキツネノテブクロ

新人看護師達のこの一年間

新人看護師研修責任者 荻田 多恵子

早いものです。「心」第42号で紹介した新人看護師達もはや入職後1年が過ぎようとしています。新人看護師研修制度が出来、病院としては臨床研修の実施と受講機会の確保への配慮に努める義務があり、この1年間研修企画や育成に関わってきました。一方新人看護師達は研修を受け、資質向上を図るように努める義務があると謳われていました。

ある本に、一般社会の新人は学生から社会人になるためのハードルを乗り越えて一人前になると書かれていました。一方、専門職業人としての新人は社会人になるためのハードルプラス専門職業人になるためのハードルの2つの山を乗り越えなければならないと書いてあったのを思い出しました。学生から一変して社会人・そして看護師という専門職として働くためにこの1年間スタッフや皆さんに支えられながら悩んだり、苦しんだりして乗り越えてきました。集合研修で技術を学び、そして臨床の場で実践という繰り返しをしてきました。夜勤入りはとても不安であり、体調を整えるのもままならない様子もありましたが、経験を重ねなんとかクリアしました。今では、なんとか日々の看護は先輩に確認しながらできるようになりました。ご迷惑をおかけした場面もあるかとは思いますが、患者様の温かい言葉や笑顔に支えられて看護の喜びも知ることが出来ました。

先日1年間の最後の研修として「私の看護観」についてのグループワーク研修を行いました。研修では、日々の患者さんとの関わりから話し合いを行い「自分の大事にしている看護」が何かを振り返る良い機会となりました。看護観は看護師の質の向上のためにもとても大切な看護のよりどころでもあります。同期の仲間と、そして先輩看護師と看護について語り合えた実りある時間だったと感じています。2月28日、自分の看護観を発表する場を設け、互いの看護観について共有することが出来ました。

この1年間、研修責任者として新人看護師の研修に関わって感じたことは、基本技術の習得はもちろん必要不可欠ではありますが、看護師として患者さんにどのように関わっていくか、自分の大事にしている看護は何かしっかりと自分の看護観を持ち、丁寧に患者さんとの関係を作り上げていくことが出来る看護師を育てていく事が一番大切なことであると感じました。そして、患者さんを中心に患者さんの思いに耳を傾けられる看護師に育ってくださることを願っています。「教えたように育つものです。」とある先生がおっしゃっていました。これからも、新人看護師との関わりを通してどこの病院にも負けない看護師の育成に取り組んでいきたいと思っています。

この1年間の研修や出来ごとそして新人看護師の思いを三豊総合病院ホームページ看護部の新人看護師の様子に毎月載せています。是非一度インターネットを開いていただきこの1年間の研修の様子を見ていただければと思っています。そして、これからも新人職員の育成へのご協力をお願いいたします。





TQM活動の紹介

TQM運営委員会 大西 孝子

TQM活動とは、Total Quality Managementの略で、業務そのものや組織能力の質の向上を目指して取り組む組織活動の事です。当院は、平成15年からこの活動に取り組んできました。看護部の活動から始まったものですが翌年の平成16年からは、病院全体の活動になり、全部署が参加して現在に至っています。

毎年5～6月頃にテーマを決め、現状の把握と対策の検討を行い、目標値を決めて約一年間で問題の解決に取り組めます。取り組むテーマは、患者サービス向上を目指したもの、医療安全を目指したものや自部署の業務改善を目指したものなど、各部署の特色を生かした様々な内容になっています。

当院の理念は、地域の住民の皆さんから信頼される医療を提供することですが、医療を取り巻く背景は日々変化しており、職員は昨日と同じ業務を行っていても医療サービスの質を維持

することはできません。病院の理念に沿った医療を提供するために、今の業務の中の問題点を見出し、目標を持った取り組みを行うことで、住民の皆さんに三豊総合病院があって良かったと思っていただきたいと思います。



= 発表演題の例 =

- 咀嚼不良の方に食べやすい食事の提供を目指して……栄養管理課
 - 糖尿病教育入院のスリム化をめざして……中2病棟
 - 職員の健康を守り健やかで明るい職場環境をめざす……健康管理センター
- 他にも医療安全、業務改善をテーマにした発表もあり全部で9題の発表でした。

節分行事食

鰯・こんにゃくは鬼(邪気)を払うといわれ、節分に食べられる様になりました。栄養管理科でも節分の献立を取り入れました。今回は白和えのレシピを紹介します。作ってみてはいかがでしょうか？

節分行事食

鰯塩焼き／豚汁／白和え／節分豆



白和え (4人前)

木綿豆腐……………160g
 にんじん……………40g
 ほうれん草……………50g
 ここんにゃく……………20g
 むきえび……………10g
 すりごま……………1.2g
 砂糖……………20g
 白味噌……………52g



- ① ほうれん草は茹でしておく。
- ② にんじん・ここんにゃく・むきえびは薄く下味をつけておく。
- ③ 木綿豆腐はつぶす。(当院では茹でています。)
- ④ ①・②・③にすりごま・砂糖・白味噌を加えて混ぜ合す。

ひな祭り

小児科病棟

桃の節句を前に2月28日、小児科病棟のロビーでひな祭り会が行われました。ひな段の前でひな祭りの音楽を聞きながらおいしいお抹茶やお菓子をいただき楽しいひと時を過ごしました。

また、職員の手作りの紙製のお雛様、おだいり様をプレゼントしました。内科入院の患者様も参加頂き、子どもたちと楽しく世代を超えた交流がはかれ、すてきな笑顔を見ることが出来ました。



新任医師紹介 よろしくおねがいします。



もりやあきお
内科 守屋昭男

1月に赴任いたしました。岡山県倉敷市出身で、平成7年に岡山大学を卒業しました。香川県で暮らすのは卒後2年間の香川県立中央病院での研修以来となります。

B型・C型肝炎や肝臓癌を中心とした肝疾患を専門としており、今後は非アルコール性脂肪肝についても特に力を入れていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



健康フェア2011

平成23年3月5日(土)の9時から13時の間において「健康フェア2011」を開催しました。

今年のテーマは「家族でメタボ予防～生活習慣病から子供を守ろう～」で多数の家族の方に参加頂き、運動教室では賑やかに楽しく運動し、特別講演ではクイズを織り混ぜて、盛会のうちに終了しました。

